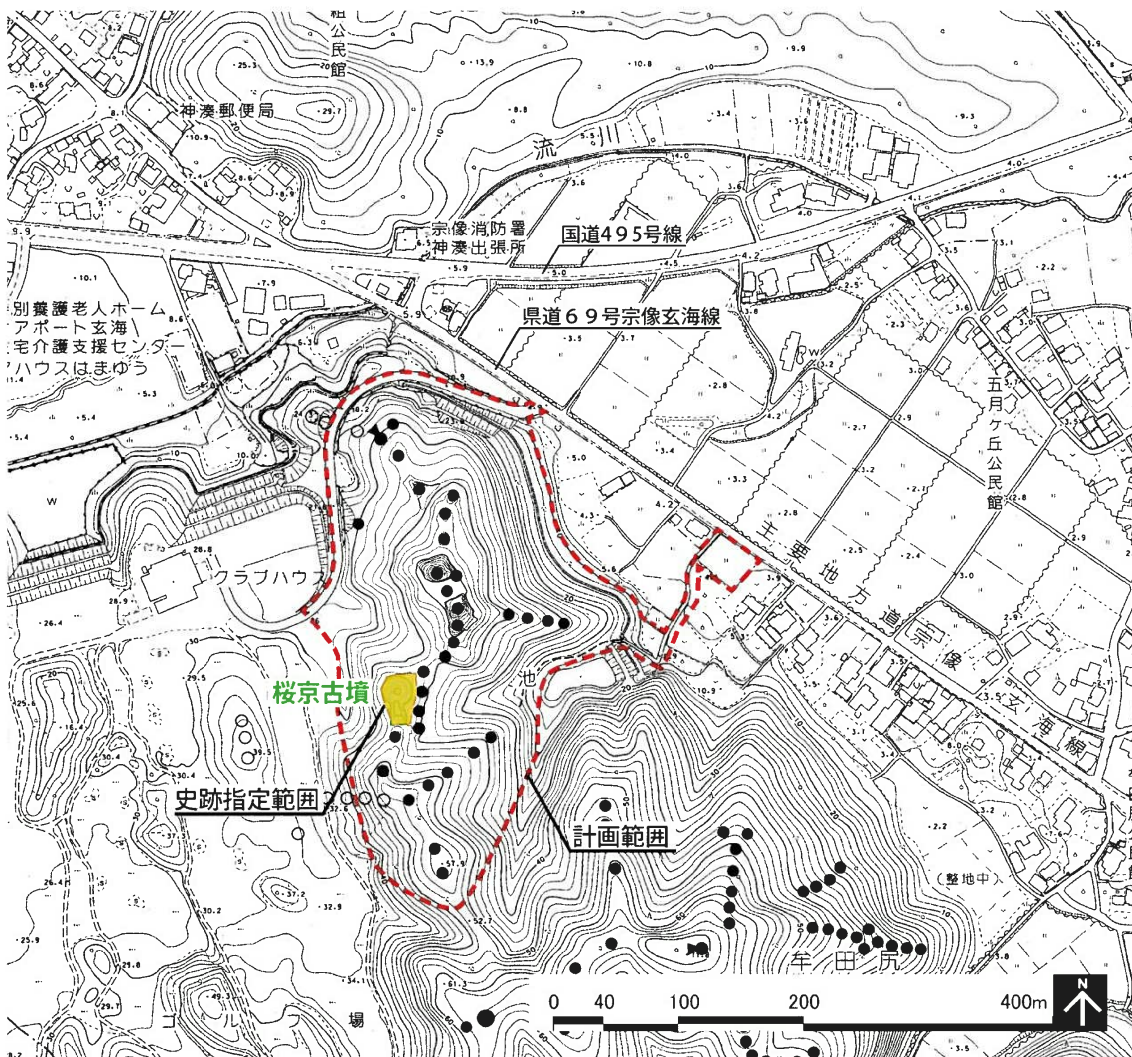


2 基本計画

1) 計画の目的と範囲

- ・この計画の目的は、希少な装飾古墳である国史跡桜京古墳の適切な保存を第一に、関連計画の趣旨に沿った保存・活用整備事業を具体化することにあります。
- ・市民意見を集約し反映させ、長期的かつ広域的な史跡保護への道筋を示すことで、地域の活性化やまちづくりに資することも目的としています。
- ・所在地：福岡県宗像市牟田尻 2019 番地、及びその周辺
- ・史跡指定範囲：893 m²
- ・計画範囲：68,000 m²



(史跡指定範囲と計画範囲)

2) 周辺環境の特性と評価

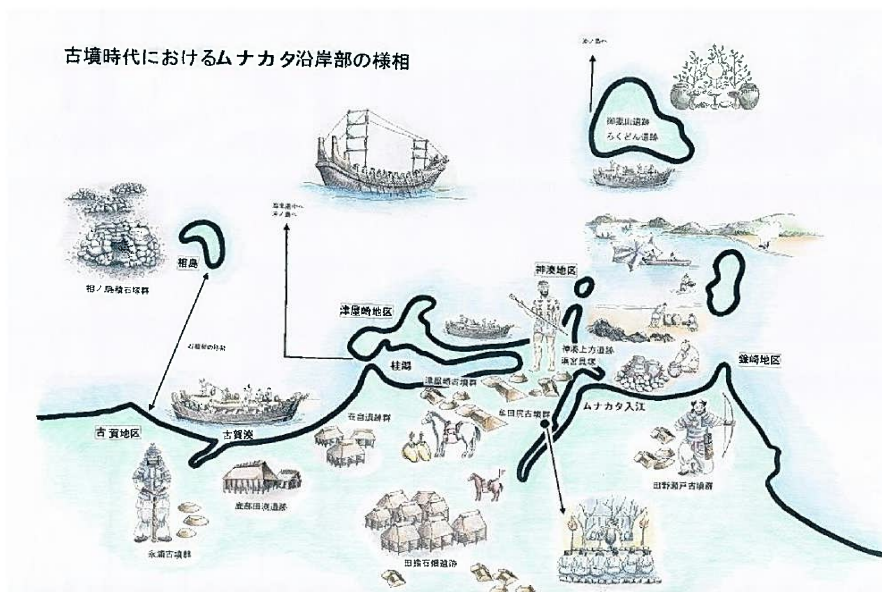
- ・桜京古墳は沿岸部に位置し、福津市と宗像市両方面を望む丘陵上に位置します。周辺の森林整備は史跡からの豊かな眺望の確保とともに、道の駅等からの視認性を高めるなど、多くの効果を期待することができます。
- ・周辺の森林は継続的管理を必要としています。市民参加による長期的な森林再生は、牟田尻古墳群も含めた広域的保護につながることを期待されます。
- ・「道の駅むなかた」、「宗像大社」、「郷土文化学習交流館」が周辺にあり、史跡が整備されれば、一定の来訪者数が期待できます。各施設と連携した利活用促進が求められます。
- ・近隣の玄海小学校からは、徒歩10分足らずで桜京古墳の登山口にいたることができます。学校教育と連携した歴史・自然学習の場として活用するのに便利な位置にあります。
- ・宗像市でも急激な高齢化を迎え、高齢者の活躍の場が求められています。市民参加型の活用展開が求められます。また整備においては解説板や便益施設などとともに、バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応が求められます。



(急勾配な既存の里道)

3) 史跡の特性と評価

- ・桜京古墳は希少な装飾古墳であり、確実な保存と継承が必要です。
- ・周辺に展開する浜宮貝塚など、古墳時代における宗像海人族のくらしぶりを知る遺跡群と葬送儀礼にかかわる古墳群などは総体として考えることが必要です。
- ・牟田尻古墳群は、首長墓の連なる福津市津屋崎古墳群とは異なる固有の景観を持っています。地方豪族と海人族の支配関係を考える上でモデル的であり、行政区を越えた連携が求められています。
- ・西側が大きく崩落する墳丘は、石室環境の保全や、古墳の景観を再現させるためにも復元的整備を行うことが望ましいと考えられます。
- ・墳丘上の樹木の緑陰は石室内環境の安定化に貢献していますが、多くの懸念事項も併せ持っています。管理手法を検討し、適切に対応する必要があります。
- ・石室開口部に適切な保護施設を設置することで環境調査、管理性が向上し、壁画の保存状況に応じた一般公開を行うことが可能になると考えられます。

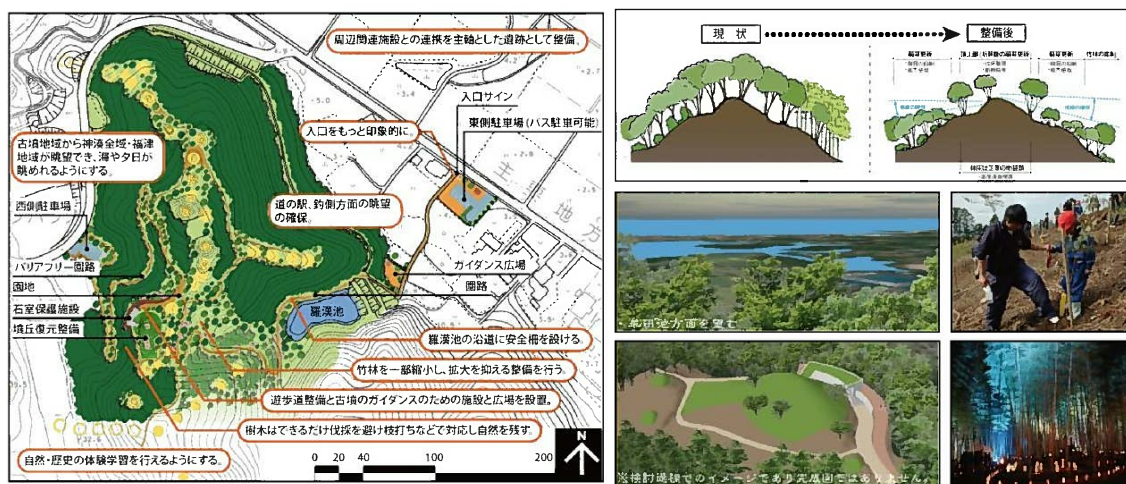


(古墳時代におけるムナカタ沿岸部の様相)

4) 市民意見

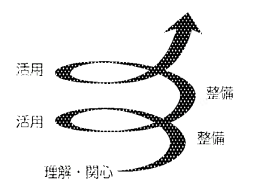
- ・ 市民協働による史跡整備を進めるにあたり、史跡整備に対する多様な市民意見を集約し、基本計画に反映させるため、市民ワークショップを開催しました。このワークショップでは市民の立場から広域的な保護に向けた長期的な構想をまとめ、本計画に対する市民意見を集約しました。これらの市民意見は地域の活性化やまちづくりに資するよう、本計画や整備に活かしていきます。

市民意見による長期的構想



市民意見の集約

- ・ 地域の歴史・文化の象徴とする。
- ・ 自然豊かな歴史空間を創出する。
- ・ 桜京古墳を次世代へ継承する。



5) 基本理念と方針

・史跡整備の柱となる基本理念と、この理念を具体化するための基本方針を以下のとおり掲げます。

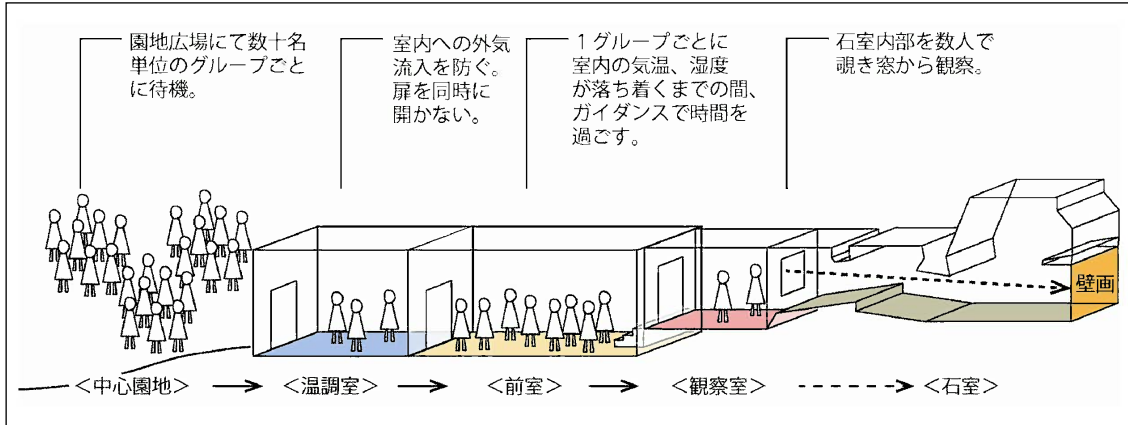
基本理念	「希少な装飾古墳である桜京古墳を確実に次世代へと伝えるとともに、玄界灘を望み、宗像海人族の活躍に思いを馳せる自然豊かな歴史空間を創出し、且つ地域の文化的象徴として親しまれる整備を目指す。」
-------------	--

基本方針	<p>ア) 保存方針</p> <ul style="list-style-type: none">① 壁画と石室を適切に保存・整備する。② 墳丘の保存・修復を行う。③ 周辺環境の保全・整備を行う。 <p>イ) 活用方針</p> <ul style="list-style-type: none">① 壁画と石室の状況に留意し、一般公開を行う。② 地域や学校、関連施設と連携した活用展開を進める。③ 活用を促進するための施設整備を行う。④ 世界遺産登録活動との連携を進める。
-------------	---

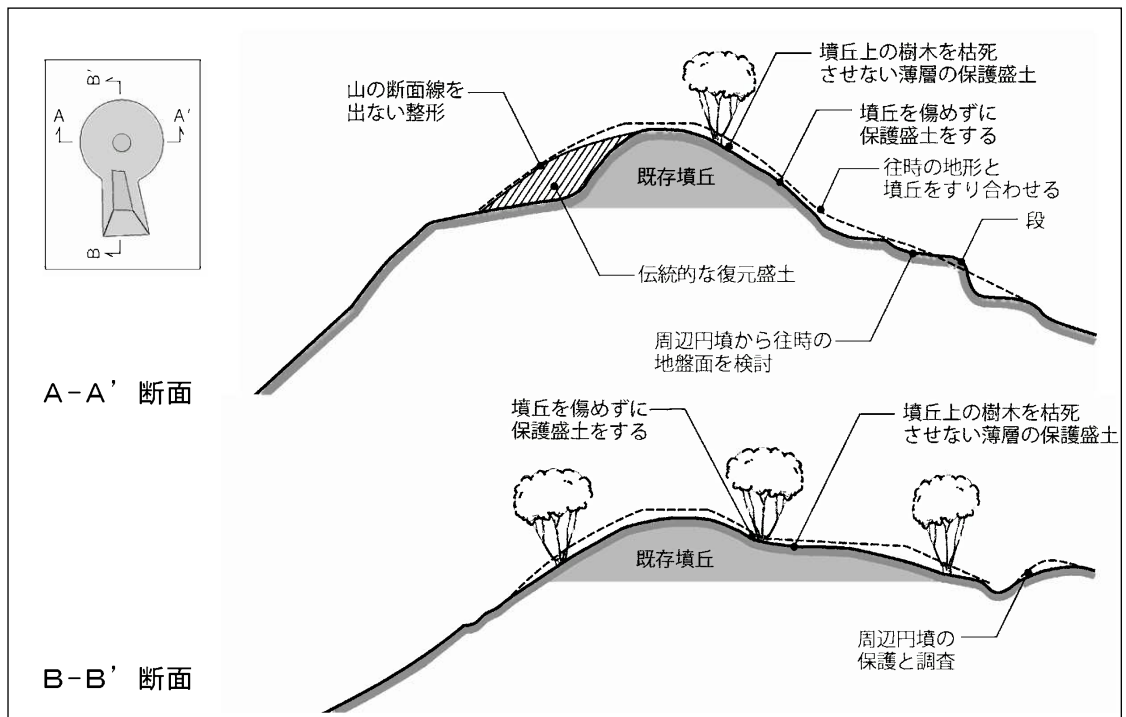
6) 整備基本計画

- ・宗像海人族の活躍に思いを馳せる自然豊かな歴史空間を創出し、周辺の関連遺跡群や観光施設と連携した教育活用や文化観光ができる場として整備します。
- ・整備にあたっては、Ⅰ期整備としてすでに指定されている墳丘、石室の保護、古墳への管理道路、保護施設設置、便益施設を中心とした整備を行います。
- ・Ⅱ期整備以降は遺跡を評価するための広域的な調査・研究や社会状況など事業の実現性を踏まえ、今回策定する整備計画を更新し具体化していきます。
- ・石室の壁画を確実に保護するために、断熱性能や防水性能に配慮した石室保護施設を石室開口部に設置し、継続的な環境管理を行います。
- ・保護施設を活用し、観察窓越しの一般公開を石室内環境に応じて可能にします。この施設は不特定多数の来訪にも対応できるよう安全面や福祉面にも配慮します。

■内部構成

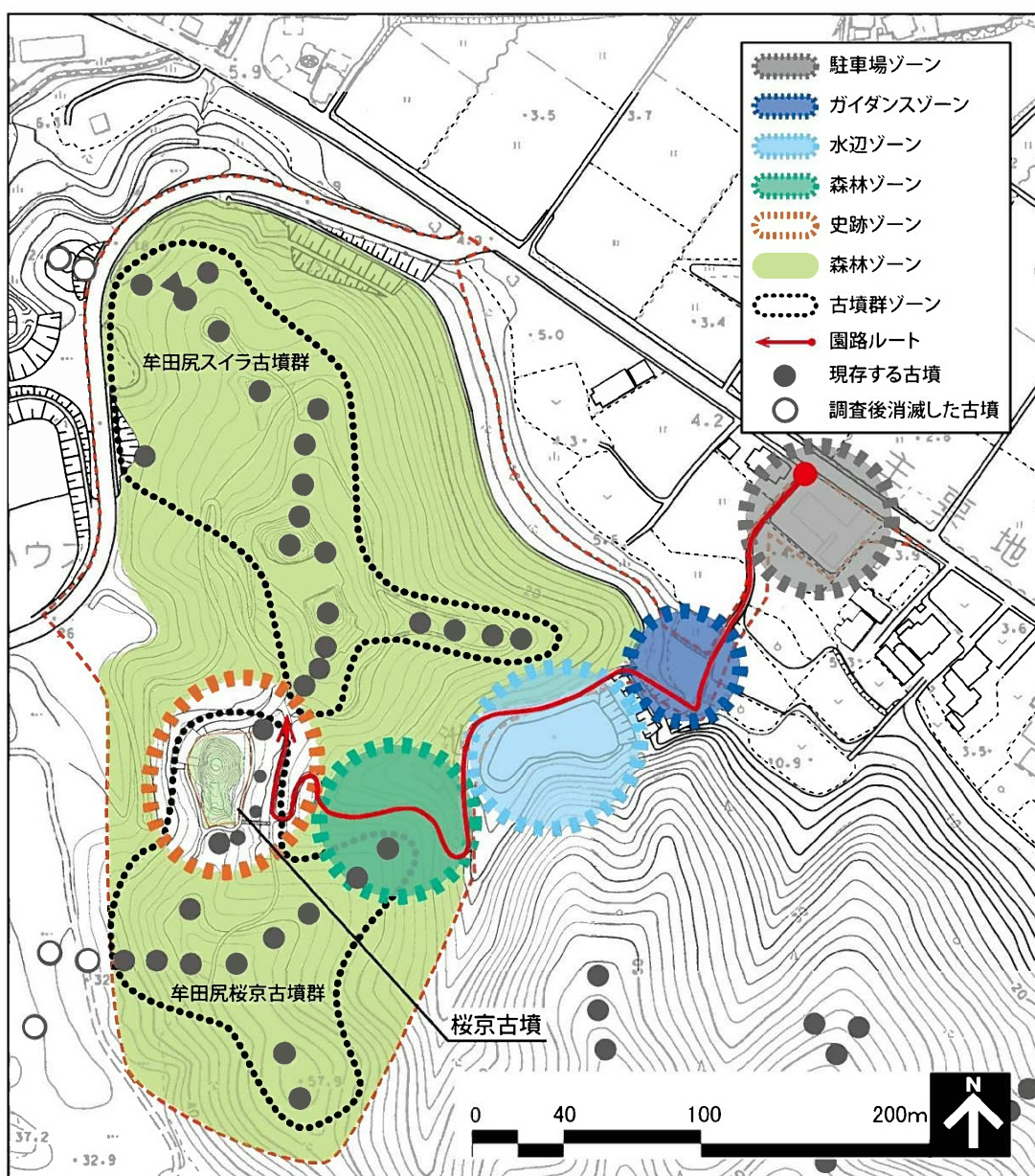


- ・ 墳丘は、調査成果に基づき復元的整備を行います。墳丘の整備に伴う周囲の地形も適切に復元し、築造時の風景の再現を試みます。
- ・ 墳丘上の樹木は適切に処置したうえで極力保護し、継続的に管理します。



- ・周辺の森林は保全に努めます。眺望の確保や竹林の抑制、園路整備などの初期整備とともに、森林の再生を継続的に進められる計画や体制づくりを行い、憩いの森の再生と古墳群の広域的保護を目指します。
- ・宗像市全体の歴史遺産や観光資源、宗像海人族の関連遺跡の全体像がわかる解説版や桜京古墳及び牟田尻古墳群の解説版、風景や森林に関する解説版などを設置します。
- ・来訪者に向けたサインや、駐車場などの便益施設を整備します。
- ・史跡の周辺は眺望が望める園地として、バリアフリーに配慮した整備を行い、多くの来訪者に憩いの場として提供します。

ゾーニング図



7) 公開、活用計画

- ・石室内に描かれる壁画は石室保護施設を活用し、観察窓越しの一般公開を石室内環境や壁画の状況に応じて行います。
- ・近郊の装飾古墳を擁する市町村が開催する広域事業との連携や、福津市や宗像市などの近隣古墳群や関連施設との連携活用事業を展開します。
- ・郷土文化学習交流館や教職員と密接に連携し、学校教育や生涯学習の場として活用を図ります。
- ・郷土文化学習交流館に属する地域学芸員や歴史観光・森林整備などに取り組む各種ボランティア活動の実践の場として提供します。
- ・宗像遺産ネットワークに位置付け、歴史観光ツアーなど近隣史跡との連携による魅力の向上を目指すとともに、インターネットなど時代に即した情報提供を行います。
- ・世界遺産の暫定リストに記載される「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産としてアピールし、世界遺産活動を推進します。
- ・周辺の園地は森林保護活動の促進や、歴史観光の振興のためのイベントの開催などに提供します。



(市民参加による森林整備活動)



(森林整備関係のイベント)

8) 管理・運営計画

- ・市民との協働による管理運営を継続的に進める体制づくりに努めます。
- ・史跡及び園地の維持管理に関しては行政が中心となって、観光ボランティアなど市民とともに管理運営を行っていきます。
- ・周辺森林の整備に関しては地域のボランティア団体などが中心となり、行政とともに継続的に進められる状況整備を進めていきます。
- ・広報活動やイベントの開催などを積極的に行い、史跡や森林に対する市民の関心を高める機会を広げるよう努めます。



(ライトアップイベント)